

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

かわら版

— 第 1 2 号 —

事務局：京都府環境部公営企画課

TEL：075-414-4772 FAX：075-414-5470

e-mail：koei@pref.kyoto.lg.jp

～★ 平成29年10月発行 ★～

琵琶湖・淀川流域図

— 府県界
— 流域界
— 上水供給界



構成団体

- ・三重県地域連携部
水資源・地域プロジェクト課
TEL:059-224-2010
 - ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
TEL:077-528-3461
 - ・京都府環境部公営企画課
TEL:075-414-4772
 - ・大阪府政策企画部
戦略事業室空港・広域インフラ課
TEL:06-6943-8054
 - ・兵庫県企画県民部
ビジョン局水エネルギー課
TEL:078-362-3057
 - ・奈良県地域振興部地域政策課
TEL:0742-27-8489
- [オブザーバー]
- ・(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
TEL:06-6920-3035

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは

平成15年3月に京都市等で開催された『第3回世界水フォーラム』を契機に、流域6府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動

水質や生態系などの水環境保全には、流域での一体的な取り組みが必要であることから、「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」は、府県が連携し、住民・NPOなど多様な主体との協働のもとで進めていくこととしています。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

■三重県■

川上ダム建設事業について

1 概要

川上ダムは、水資源機構が平成4年建設大臣から事業実施の指示を受け、伊賀市（旧名賀郡青山町）地内の淀川水系前深瀬川に建設中の多目的ダムです。

事業は、淀川流域の洪水被害の軽減および水道用水の確保、発電事業、流水の正常な機能の維持を目的に進められてきましたが、近年の社会情勢の変化から、水道用水の一部縮小・撤退、発電事業の撤退があり、また維持管理（ライフサイクルコスト低減）の観点から既設ダムの堆砂除去のための代替補給が追加されました。

川上ダムの目的は、以下の通りとなっています。

- ① 洪水調節
- ② 流水の正常な機能の維持（既設ダムの堆砂除去のための代替補給を含む）
- ③ 水道用水の確保（三重県伊賀市）

川上ダムの総事業費は平成26年度価格で、1,180億円となっており、予定工期は平成34年度となっています。

また、堤体諸元等は、重力コンクリートダム、堤高84m、総貯水量3,100万 m^3 、湛水面積1.04 km^2 となっています。

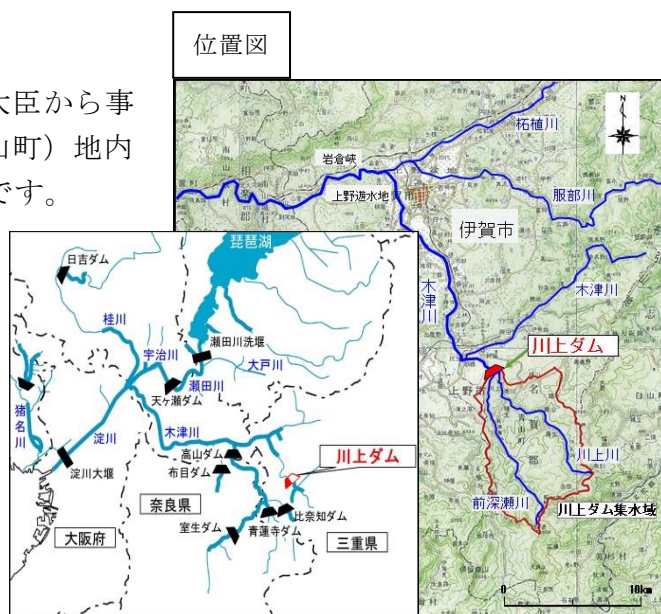
2 事業進捗状況

本体工事の準備工事となる川の流れを迂回させる転流工工事のうち仮排水路トンネル部が、平成23年1月に完成し、現在は付替道路工事など周辺整備工事を実施しています。平成28年度末で水没家屋移転100%（40戸すべて完了）、用地取得は水没用地で約99%（面積ベース：115haのうち114haが完了）となっています。

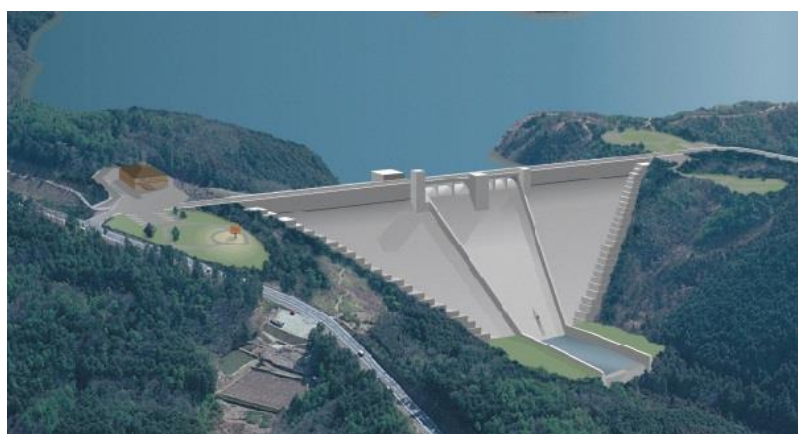
今年度は、ダム本体の準備工として、落石対策や工事用道路等の整備が進められるとともに、平成34年度の完成をめざしてダム本体工事が着工されました。

また、ダムの目的や貯水容量などの情報を記載した建設中のダムカード（Ver.1.0）が川上ダム建設所で作成され、川上ダムに関する理解を深めていただくことを目的に配布されています。

位置図



完成予想図



■滋賀県■ 第16回世界湖沼会議への参加

○世界湖沼会議について

世界湖沼会議は、研究者・行政担当官・NGO や市民等が一堂に集まり、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題や、それらの解決に向けた取組の議論の場として、1984年に滋賀県の提唱で開催された国際会議です。

以来、概ね2年ごとに世界各国（9か国）で開催されています。滋賀県では第1回の後、2001年に第9回会議を開催しました。

○第16回世界湖沼会議（インドネシア・バリ島）

平成28年（2016年）11月7日～11日の5日間、東南アジアで初めて、インドネシア共和国バリ島において、インドネシア環境林業省等と（公財）国際湖沼環境委員会（ILEC）の共催により、「湖沼生態系の健全性と回復力ー生物多様性と種の絶滅の危機ー」をテーマに、第16回世界湖沼会議が開催され、世界の湖沼関係者やNGO、行政関係者が多数参加し、世界の湖沼問題の解決に向けて様々な議論が行われました。

○滋賀県の取組

滋賀県からは、三日月知事、野田県議会議長他、県議会議員、県職員や県内のNGO関係者、研究機関職員等が参加し、世界湖沼会議の理念を体現しました。会議では、三日月知事が、開会式において、基調講演を行い、世界湖沼会議が世界の湖沼環境改善のために果たしてきた役割を振り返るとともに、滋賀県の琵琶湖環境保全の様々な取組を世界に向けて発信しました。その他、県職員や県内NGO関係者、大学生等が、分科会等において、水質改善や外来生物対策などの取組事例について発表を行うとともに、県ブースを出展し、世界各国からの出席者と活発な意見交換や交流を行いました。

○次回、第17回世界湖沼会議について

次回は、平成30年（2018年度）10月15日（月）～19日（金）に、茨城県霞ヶ浦で開催されます。滋賀県も積極的に参加してまいりますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。



三日月知事の開会式での基調講演



分科会での発表

■京都府■ 京都府営水道施設の一般公開について～乙訓浄水場～

京都府営水道には、宇治浄水場、木津浄水場、乙訓浄水場の3つの浄水場があります。この3つの浄水場で浄水処理した水を府南部の10市町に供給しており、乙訓浄水場では、主に乙訓2市1町（向日市、長岡京市、大山崎町）に水を供給しています。この度、平成28年度に耐震化工事を完了したため、6年ぶりに一般公開を行いました。

京都府では、年1回、京都府営水道施設である浄水場の一般公開をしています。今年度は、6月10日（土）に乙訓浄水場（京都市西京区）の施設を公開しました。当日は、晴天にも恵まれ、約470名の府民の皆様に来場いただきました。

一般公開では、普段は見る事が出来ない水道施設の見学をはじめ、水質実験、地下80メートルにある水道施設までのインクライン（トロッコ）の乗車体験、乙訓2市1町の紹介や水関係企業の展示ブースなど様々なコーナーを通じ、多くの府民に浄水場について知っていただくよい機会となりました。

来場者からは「いつも安全な水を有難う」「水道の作り方を楽しく学べて良かった」「おいしい水を供給する努力が見えた」など、多くの声援をいただきました。



■大阪府■ 木津川遊歩道事業 ～トコトコダンダン～

木津川遊歩空間は、大阪市西区の木津川左岸で整備を進めている遊歩道と広場を有する空間で、供用済みの川沿いの遊歩道に加えて、その中間に位置する広場が完成しました。(遊歩道含む全体面積 4,300 m²)

<H29.4 木津川遊歩空間のグランドオープン>



- 遊歩道や広場には、幅や高さが異なるひな壇構造物を連続して配置しており、それらは、人と水を緩やかにつなげる階段としての機能をはじめ、座って食事や読書ができるベンチや、児童の遊び場としての機能を持ち合わせています。

また、ひな壇構造物の中には花壇も設置され、地元住民等が維持管理に携わることでコミュニケーションが活性化されることを期待しています。

愛称は、その特徴的なデザインに因み、「トコトコダンダン」。多くの人に愛される空間となることを願い、公募によって決まりました。

- 遊歩道を整備した区間は、改修前は高さ3メートル程度の防潮堤が垂直に立ち、人が川に近づけない構造となっていました。そこで、既存護岸の上に川側へ張り出す片持ち梁形式の鉄筋コンクリートを打設し、新たに遊歩道空間を生み出しました。また、広場を整備した区間は、元々は川から広場の方向へ入堀が続いていましたが、耐震事業によって埋め立てられ、このたび広場へと生まれ変わりました。

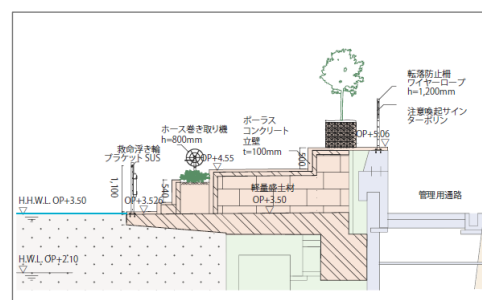


図 代表断面図

- 空間のデザインにあたっては、地元住民とのワークショップを開催し、どのような空間なら愛着を持って活用できるかを焦点に話し合い、デザインコンペの募集を行うなど、全体の統一感を図りながら実現しています。

今後は周辺施設や様々な団体との連携などを交えながら、地域の新たな水辺の資産として、益々ご活用いただき発展することが期待されます。

■兵庫県■ 阪神水道企業団から宝塚市への新規供給について

1 阪神水道企業団の概要

阪神水道企業団は、大きな河川のない阪神地域の水需要に対応するため、全国初の水道用水供給事業体として阪神間旧16市町村を構成団体とする「阪神上水道市町村組合」として昭和11年7月に設立された。府県を越えて淀川に水源を求め、安定的な水利権を確保しつつ、5期にわたる施設の拡張を行い、阪神地域における水需要増加に対応してきた。

施設能力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日最大給水量 1,128,000^m³ ・ 構成市の水需要の約9割を供給（平成27年度実績：88%）
水源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水源は全て琵琶湖・淀川水系に依存 ・ 13.818^m³/s（1,193,875^m³/日）の水利権を保有
浄水処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異臭味除去等の対応を実施 ・ 平成12年度に全量高度浄水処理化（オゾン・活性炭処理）を達成

2 宝塚市水道事業の課題

宝塚市の水道は、地下水、ダム水と河川表流水を水源とする自己水及び兵庫県営水道からの受水で市内の給水をまかなっているが、経営する水道事業において、①老朽化した2つの浄水場を更新する必要と、②頻発する濁水への対策を講じる必要があることから、その対応を求められていた。



3 阪神水道企業団から宝塚市への新規供給

一方、阪神水道企業団では構成市への供給水量が減少しており、課題の解決に向けた両者のニーズが一致したことから、宝塚市は兵庫県営水道からの受水を増量した上で、阪神水道企業団から新規受水することとなった。

阪神水道企業団では、平成27年1月、企業団設立以来、初めて構成団体の変更に伴う規約変更を行い、平成29年度から、宝塚市への水道用水の供給を新たに開始している。

供給能力 水源	旧計画 (^m ³ /日)	新計画 (^m ³ /日)	差 (^m ³ /日)	説明
宝塚市 (自己水源)	66,300	24,880	Δ 41,420	老朽化した小林浄水場、亀井浄水場を廃止
兵庫県営水道	20,000	25,550	+ 5,550	兵庫県営水道からの受水を増量
阪神水道企業団	—	27,350	+ 27,350	阪神水道企業団から新規受水 宝塚市は阪神水道企業団の構成市となる。
計	86,300	77,780	Δ 8,520	

※供給エリアは市全域ではなく、市南部地域(武庫川右岸地区)

※段階的に供給量を増量 10,000^m³/日(平成29年4月～)、27,350^m³/日(平成30年3月～)

■奈良県■ 水の週間 親子ダム見学会開催 ～室生ダム・布目ダムと宇陀川浄化センター～

奈良県では、毎年8月第1週の「水の週間」のイベントとして、奈良県民の皆様を対象に、水資源機構と共催でダム見学会を開催しています。

今年は、8月1日（火）に淀川流域にある室生ダム・布目ダムと宇陀川浄化センターを45名の方々に見学していただきました。奈良県水道の水源の室生ダムの上流には宇陀市の市街地や農地が広がっています。この上流域の生活排水を処理する宇陀川浄化センターでは、茶色く濁った汚水が、微生物（活性汚泥）の働きや砂ろ過で、アユが住めるくらいの水に処理されていく一連の過程を見学しました。また、汚水を浄化する微生物を実際に顕微鏡で観察しました。続いて室生ダムに移動し、ダム湖の水質を改善するために湖上に浮かんでいる深層および浅層曝気設備についての説明を受け、洪水吐きゲートを見学し、堤体の高さを実感しました。

布目ダムでは、堤体内部にも入りました。階段を下るにつれ、どんどん涼しくなっていく様子に子供達は歓声を上げていました。再び、暑い外へ出るとダムの巨大な堤体が目の前に現れ、皆さん思い思いに記念撮影をしていました。最後は「水質実験」をおこないました。実験では、パックテスト（簡易分析）により、pHやBODを色の変化で計測し、水質を確認しました。

参加者の方々からは様々な質問が飛び出し、浄水場やダムについて高い関心を持って見学会に参加して頂いたことがうかがえました。また、布目ダムや室生ダムは淀川の上流にあると初めて知って驚いていた方もいました。所長を始め管理所の皆さんの丁寧な説明で、参加者の方々はダムや水についての理解をより深めて頂いたことと思います。この見学会が、水の大切さを身近に感じ、水のことを考えるきっかけになればと思います。



宇陀川浄化センターの見学



室生ダムの見学



ダム内部（布目ダム）

■公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構（以下、BYQ）では、「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をテーマに、自主研究や研究助成、こども水質保全活動助成、広報啓発事業などを通して、琵琶湖・淀川流域の水質保全活動の推進を図り、水環境課題の解決に向けた取り組みをしています。BYQのオフィシャルホームページでは、水環境に関わるさまざまな情報を公開しています。



BYQ水環境レポート

琵琶湖・淀川流域における水利用や水質の状況、変遷等の情報を一元的に取りまとめた年次報告書「BYQ水環境レポート」を継続して発行・公表しています。

WEBページでもすべて閲覧可能です。



琵琶湖・淀川流域の河川を辿り、専門家が詳しく解説した『琵琶湖・淀川流域散策ブック』



この散策ブックは「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる〜ちょっと大人の散策ブック〜」と銘打ち、名水、滝といった流域ごとの見どころ、川にまつわる興味深い話を写真や地図を用いて解説しています。身近にある川を散策、観光などで訪れる際に気軽に携帯して川への親しみを深めていただければと思います。

BYスタンプラリー

スタンプラリー形式で、琵琶湖・淀川流域で水環境改善活動を行っているNPO法人、水関連施設の見学や参加などを通して、流域住民の皆さんが水環境への関心を高めていただくことを目的としています。



WAQU2（わくわく）調査隊

身近にある湖沼や河川を流域の住民の皆さんが、簡単な方法で水質検査をすることで、水に親しみ、水環境を考える機会としていただくことを目的に実施しています。

